# 令和3年10月号

# 春日部セントノア病院

**T**344-0001

埼玉県春日部市不動院野1112-1 TEL048-760-1200 FAX048-760-1201

https://www.kasukabe-saintnoah.jp



### ~目次~

●病院短信 『食べることが生きること』

渡辺 弘子

小沢 のり子 ●日常の一コマ

●いきいき看護・介護

西田 正子 田中 ひとみ

●誕生日会&敬老会

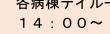
●相談室だより

各病棟デイルーム

## 10月の予定



1病棟 10月 4日(月) 10月 2病棟 4日(月)



10月12日(火)







○が出まし た~(\*^^)∨

おた

つの

この

数日で悲鳴をあ

と喜び

院短信

看護師

事 否 名  $\mathcal{O}$ 

ているが低い

知症

人述の程 かやの とても悲 中 1) 食事 やし 失行だけの他の患 を摂取 患者され で 事でする (誤嚥性肺炎) ならないできる患 徊  $\mathcal{O}$ 連 続で 食 挙 手のス者ね 0 3

食事 番 と 0 も飽きず と形態

悩くだせカか舞のでがるきみれにんロ、伎をの、の出 る試は お ツ で当院に入院と できるとか 食の 補助食品で おせ 7 拒食があ と言 0 ŋ 食べい 敢え 0 キ

前に出 が原因で、

来て

つべ

失行

な

分か

5

なく

な  $\widehat{\Box}$ 

0

いる、

う行為です。

で、

相談室

たいと思っています。

ホスピタルライフマネージャー

田中ひとみ

1病棟 介護員 小沢 のり子

『食べることが生きること』

少し心配性なところがあると娘さんは話されていました。

くれません、時に大声で暴言を吐かれることもあります。

を見て「違うな」と思いながらも目を開けてニコッと笑顔を見せてくれます。

さんだと分かると頑張って食べてくれます。

は、私も本当に嬉しくなります。

コロナウイルスに翻弄され、不自由な行動制限から抜け出せずにいる私たち。そんな中でも当院の患者さんた ちは、いつものスタイル?で、そしていつもの笑顔を私たちにも見せてくれています。

今月は1病棟の和子さんをご紹介します。和子さんは埼玉県杉戸町ご出身で、若い頃からとても多趣味な方だっ

たそうです。和・洋裁、編物をしたり、書道、園芸、折り紙なども楽しまれたそうです。性格はとても真面目で、

そんな和子さんも病には勝てず、認知症を患われて当院に入院されてから早や10年にもなります。この間、何 回かの危機を乗り越えてこられ、現在はとてもお元気に過ごされています。いつもはとても穏やかなのですが、

ただ、食事時になると、スタッフが「お食事ですよ」と言っても目をつむり、「嫌だ!」と言い、中々口を開けて

そんな和子さんも、娘さんが面会に来て「お母さん!」と声をかけてくれると目を開け、チラッと確認をし、娘

ここのところ当院では、このコロナ禍のために先月末迄ご家族との面会が出来ませんでした。従って和子さんも

娘さんと会うことが叶いません。そこで私が時々「お母さん」と娘さんを真似て呼んでみると、チラッと私の顔

以前と比べ、言葉数は少なくなったけれども、「おいしい?」と声をかけると「おいしい」と返してくれた時など

今月からは条件付きながら、面会も出来るようです。かけがえのない娘さんとゆっくり面会が出来る日が、早く 来るといいですね。そして和子さんがいっぱいニコッとしてくれるように、私たちはこれからも寄り添っていき

そんなコロナ下ですが入院の相談は絶えません。その相談ですが、最近は患者さんの年齢が高くなっているよ うに思います。そしてその中でも特に「食べる」という事が、かなり難しくなっている患者さんが目立つよう になりました。そう、『拒食』です。食べること自体を拒むことです。食べさせようとしても口を開けてくれな い。口に入れても吐き出す。すぐにむせ返る。そして誤嚥性肺炎を繰り返す。などなど、ご自宅であれば、ご家 族のご苦労は察するに余りある問題です。

この『拒食』に対して通常の病院であれば、すぐにでも『経管栄養』を行うと思われますが、当院ではこの『経 管栄養』をお勧めはしていません。何故ならば当院では『食べることが生きること』を原点としているからで す。口を開けてくれない。開けても吐き出す。これも認知症患者の症状の一つなのです。

『拒食』の患者さんが増えれば増えるほど病棟スタッフは大変です。でも大変だからこそ、 ご家族の痛みも解るのです。

しかしこの病院では看護・介護がどんなに大変でも、病棟の全スタッフはこの原点である 『食べることが生きること』を頑なに守ります。何故ならばその原点が当院の理念の一つ である『延命治療は行わない』に繋がっているからなのです。

人が年を重ね、生きることに支えが必要になった時は、医療よりは人としての思いやりや 優しさだ、とこの病院では教わります。今後も入院相談の時やご面会の時に、ご家族の皆 さんから受け取った思いは、しっかりと病棟スタッフに伝えたいと思っております。

